



長崎医学専門学校の木造校舎。右から本校舎、講義室2棟などが並んでいる（長崎外国語大所有）

## 浦上の長崎医学専門学校

写真に見る

1115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 7 □

西役所に置かれた医学伝習所におけるオランダ人医師ポンペの講義から始まった。長崎大医学部の起源である。

文久元（1861）年、現在の長崎市小島地区の丘に養生所（病院）と医学所（医学校）が設けられ、精舎（得館）となって明治維新を迎える。長崎府判事・井上聞多の献策で明治元（1868）年、長与専齋を頭取（校長）とする長崎府医学学校・病院に改編され、長崎県医学学校となった後、文部省に移管される。2回の廃校の危機を乗り越えて、明治10

（1877）年再び長崎県立医学学校となった。明治12年、大徳寺跡（現・西小島1丁目）に新築移転したが、明治20年に九州の医者を養成する拠点として長崎に第五高等学校医学部を設置することが決まり、25年に浦上に移転した。

木造洋館は文部省修繕部の建築家・山口半六と久留正道が設計し、監督は詩人村、現在の長崎大病院の下に県立長崎病院が開院したのは翌35年、齋藤茂吉が医専の精神科第2代教授として勤務したのは大正6

（1917）年末からの3年間で、大正12年から長崎医科大学となった。

長崎医学専門学校（現・長崎市山里地区）の木造校舎。地形を隠すため山が消されているので、撮影は要塞地帯法が公布された明治32（1899）年の後、明治38年ごろである。

右の坂を上がったところに正門の門柱が見える。右から本校舎、講義室2棟、生理学並解剖組織学講義

室2棟、解剖実習室、病理解剖教室、施療病室並附属家、製煉室土蔵物置銃器室、寄宿舎（修学寮）が並んで、崖下の日本家屋は、田んぼに新しく建てられた教職員の宿舎と思われる。

長崎の近代医学教育は、安政4（1857）年11月12日（旧暦）、長崎奉行所

室2棟、解剖実習室、病理解剖教室、施療病室並附属家、製煉室土蔵物置銃器室、寄宿舎（修学寮）が並んで、崖下の日本家屋は、田んぼに新しく建てられた教職員の宿舎と思われる。

12日（旧暦）、長崎奉行所

# 九州の医者養成拠点

（長崎外国語大学長）

週1回掲載します